



中地区の風物詩～ほたる～

今年もまたビオトープに、ほたるの描いた幾筋もの光が、私たちの目を楽しませ、歓声があちらこちらに飛び交いました。

季節はゆっくりと移り変わっていき、気が付くと、もうすっかり秋が深まってきました。

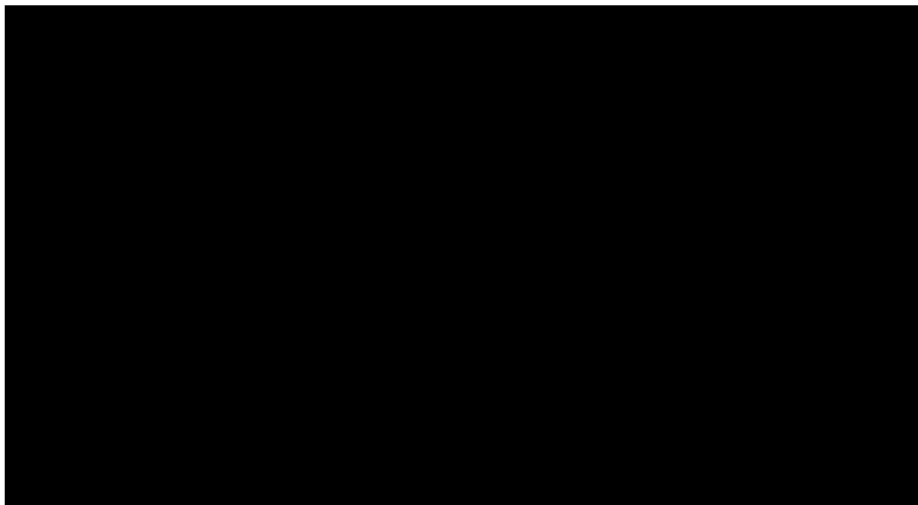
春、咲き誇って散りゆく桜花。

夏、パッと闇夜の空に閃光を散らし、たちまち消えていく花火。

中地区のほたるの緩やかに流れる一筋二筋の光の淡い残像、そんな風物詩の中の1ページとして加わったことを、嬉しく思います。



巴波川にほたるを



～中小の6年生、短歌を詠む～

式典での児童発表では、6年生が国語の時間に短歌を学習した事を生かし、中地区が誇る有名な歌人田波御白さんに縁のある田波文江さんのご指導を受けながらほたるへの想いを詠んだ短歌を、22人全員が発表しました。

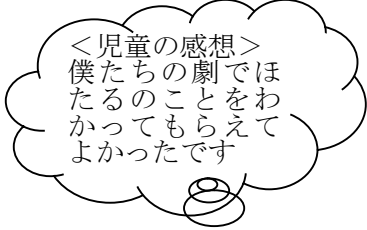
ひとりひとりの感性がキラリと光る素晴らしい短歌の発表に、会場全体が聞き入りました。



初の試み ほたる〇×クイズ

ほたるを観る会も今年で4回目を迎えることとなりました。5・6年生を中心として今年初めて「ほたる〇×クイズ」を学年全体で行い、楽しみました。

クイズの解答を児童による寸劇で行ったため分かりやすく盛り上がりました。来年はどんなアイデアが出されるか楽しみです。



＜児童の感想＞
僕たちの劇でほたるのことをわかってもらえてよかったです

「第4回ほたるを観る会」開催される



「ほたる何でもコーナー」では、ほたる1匹が一生のうちに食べるカワナナの数なども初披露！

6月10、11、12日の3日間、「中地区ほたるを観る会」が開かれ、10日にはイベントが行われました。今年はいくさんのほたるが飛び歓声があちこちで聞かれました。

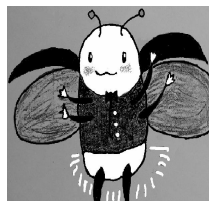
第4回目となる今年は、例年までのイベントの内容に加え、ほたるのキャラクター募集や、ほたるの寸劇と〇×クイズ、ほたるを詠んだ短歌の発表がありました。毎年毎年、楽しみな会となっていきます。



今年も「蛍橋の歴史」をビデオで放映しました。

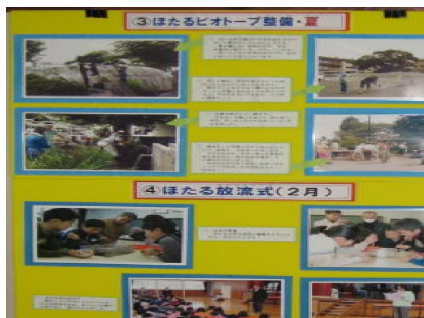
ホタルンに決定!

『ほたるを観る会』の式典では、中小ほたるのキャラクター発表が行われました。5月にキャラクターを募集した所、個性的で楽しい作品がたくさん集まりました。その中から、児童の投票によって4年生の『ホタルン』が選ばれました。『キャラクターに変身コーナー』では、「ホタルン」と一緒に写真が撮れ、会場を盛り上げてくれました。



みんなに可愛がられるように描きました。

PTA学年委員さんの協力で行われた「ほたるかご作り」は今年も大盛況でした。



「ほたるを観る会までの1年」と題して制作された2年間の展示コーナー。



ほたるを飼育してみませんか

ことしも『ほたるを観る会』には中地区の方々がおおぜい来て下さり、会はにぎやかに催されました。今回は開催日を1週間遅らせたので、観賞のタイミングがよく、ほたるの描いたゆるやかな光線をよく見る事ができました。

さて、その後のほたるはどうなっているのでしょうか？

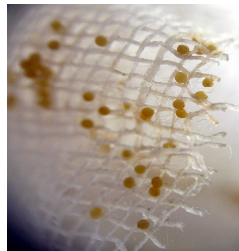
実は、ほたるの会の飼育班の皆さんや中小学校の子どもたちが、『ほたるを観る会』の翌日から、さっそく来年の『ほたるを観る会』のための準備にとりかかっているのです。そこで、飼育班の新井幸男さん宅へ伺い、その後のほたるの飼育についてお聴きしました。

産卵準備

捕獲したメスとオスのホタルを産卵箱と一緒に入れます。産卵箱にはしめった水ごけを置き、そこに卵が産み付けられます。一匹のメスから500～700の卵が産まれます。

- ① 自然界では、およそメス1匹にオス3匹の割合で生息しているようです。それに準じて飼育箱の中にはメス2匹、オス5匹程度を入れます。
- ② 飼育箱の中には片手でつかめるほどの水ゴケを入れます。
 - ・湿っているなど感じる程度に朝夕霧吹きをします。
 - ・水道水を使うときには、霧吹きの水は2時間程放置したものを使用しました。(水道水のカルキを取るため)
- ③ 飼育箱の下に常にバット(受け皿の容器)を置く。
 - ・バットには水を8割ほど入れておきます。
 - ・「ふ化」が近づいたら、バットの水は2日に1回取替え、いつも新鮮に保ちます。

ホタルの卵(写真中の黒い粒が卵です。) →



カワニナの飼育

< ほたるの飼育にはエサとなるカワニナが必要です。 >

- ① カワニナの捕獲
 - ・川で取ったカワニナの中にはホタルの大敵(たいてき)ヒルが潜(ひそ)んでいるので、塩水につけてヒルを駆除(くじょ)します。間もなくカワニナの稚貝(ちがい)が生まれます。生まれたばかりの小さなほたるの幼虫には稚貝が必要なのです。
- ② カワニナの飼育容器
 - ・カワニナは、ホタルの幼虫と別の容器で飼育します。
- ③ カワニナのエサ
 - ・雑食であるためなんでも食べますが、クレソン・キャベツ・ニンジンなどを与えます。
 - ・カワニナ同士で共食いするのはエサ不足のときです。
- ④ カワニナの水の管理
 - ・汚れたら水の交換をする程度。水道水・水温などの心配はあまりありません。
- ⑤ カワニナをホタルに与えるときに留意したこと
 - ・ホタルの幼虫は自分の体長と同じくらいの大きさのカワニナをエサとします。同じ時期に生まれた幼虫も次第に成長の差が出てくるので、カワニナも大小取り揃(そろ)えて与えるようにします。
 - ・一度に10～20匹程度あたえます。あとは様子を見ながら加減します。
- ⑥ カワニナの殻(から)
 - ・ホタルに食べられて殻(から)になったカワニナもすぐには捨てません。殻の中にホタルの幼虫が潜(ひそ)んでいることも多いのです。

カワニナの稚貝を食べる
ホタルの2齢幼虫 →



ふ化

- ① 産卵後、約1ヶ月でふ化します。
- ② 飼育箱下部の網を通り、下のバットの水の中に幼虫が落ちます。非常に小さい塊のように見えるのでゴミと間違えて捨てないように注意します。



水の取替えと水温

- ① 水の取替え方は小さい幼虫が流れないように工夫しました。
 - ・カップでそっと汲(く)み出したり、細い管で汚れた水を吸い出すなど注意します。
- ② 5ミリ～1センチの深さに水を残して取り替えます。
 - ・真夏を乗り越えられるかが飼育の重要なポイントです。
 - ・水温が25度以上にならないよう気をつけます。
 - ・ペットボトルで氷をつくり、バットに入れて水が暖まるのを防ぎました。
- ③ これからの冬の水温調節
 - ・寒さには比較的強いが、温度を20度くらいに保つと餌を活発に食べ成長がよいのでやや大きめの容器に飼育バットを浮かばせ、まわりの水をヒーターで温め、間接的にバットの中の水をあたためて幼虫が棲みよくなります。

ほたるを飼育して

< 飼育班としての感想をお聞きしました。 >

- ・ごく小さな幼虫が日増しに成長していくさまを見てこれまでの苦勞が報われる気持ちになります。
- ・2月のほたる放流式には、次の『ほたるを観る会』まで「こんどは自分の力で無事育てよ。」という深い想いがしますね。
- ・『ほたるを観る会』で、ほたるの描く光に参観の人の歓声を聞くと、飼育のやりがいを実感してうれしくなります。

飼育してくださる方募集中

今ほたるの飼育をしてくださっている人は中小学校の児童の他、ほたるの会の皆さんです。

今後たくさんほたるが飛ぶようにするため、そしてこの中地区が、昔のようにほたるの飛び交う名所となるように、広く一般の方々からほたるの飼育にチャレンジしたいという方を募集しています。

初心者大歓迎です。ご希望がありましたら気軽に中小学校までご連絡ください。

連絡 中小学校 38-0649
担当 町田教頭先生へ

編集委員 <広報班>

田波耕太郎 田中佐一 山道玲子
池羽径世 青木環 福田昭枝
小川智子 小林まき 青木誠